



### 一足早いもちつき大会

快晴に恵まれた11月23日、下黒山公民館で、親子もちつき大会が行われました。今年4回目のこの大会に集まった親子は、つきたてのもちを食べたり、ゲームなどに楽しい一日を過ごしました。

### 錦鯉展

十一月三日 中央公民館(各部の一位のみ)

○総合優勝(市長賞) 野口哲雄(尾山) ○一部—金子栄松(尾山) ○二部—佐藤光栄(川西二丁目) ○三部—中川謙作(正尺) ○四部—星野喜一(大久保) ○五部、六部—佐藤富夫(木崎) ○七部—野股正二(名山) ○八部—柳清司(長戸)

### 秋咲きつばき展

学校 参加十四チーム  
○中学生の部—早通中ドラゴンズ

十一月二十三日(二十

五日 中央公民館(市関係者のみ)

○県知事賞—阿部利夫(東新町二丁目) ○地元国会議員賞—滝沢時男(川西二丁目) ○BSN賞—宮尾正(大久保) ○TNN賞—石山裕(新井郷) ○NT21賞—遠藤恭巳(長戸) ○教育長賞—島才市(嘉山六丁目)

## 市民文芸

### 俳句

文化祭俳句大会から

豊栄俳句会

紅葉燃ゆやがてはダムに沈む村 渡辺 大山

文化の日女子寮やさしき眉を描く 山崎 智盛

冷やかな音置き急げり配達夫 本田十一郎

散り急ぐ紅葉掌に受け観世音 小熊 茂子

疲れし瞳いやす夕映の庭紅葉 星野 莊城

### 川柳

「自由吟」 豊柳会 師橋山雨選

新しい毛布に軽い子のいびき 藤田百合子

母の忌に母のかたみの帯が鳴る 服部 尚二

新札へ一と言なんとたよりない 鹿島 郁子

年金の引き算だけで年が暮れ 中川 草舎

しばし居て温かい空気を置いてゆき 水田蛙太郎

### 短歌

豊栄短歌会 五十嵐清選

家建たぬ空地の芒銀色に主招ぐごと風に揺れをり 阿部 竜次

実家訪へばいつもの居間に亡き父の語りかくるがにふと思ほゆる 田辺 タカ

あかあかと夕陽に燃ゆるもみぢ賞で裏五頭山荘の秘境にあそぶ 山田 スミ

新調のキャラバンシューズは赤き色歳を忘れて燧岳にいどむ 畠山 秀子

あらたかな菅谷不動を見あげつつ願ひかなえと水振りかける 五十嵐絹子

### ありがとう

#### ありがとうございました

- 豊栄高校生徒会(代表宮野政行)が、文化祭のみの市での収益金一万八千四百四十円を福祉基金へ寄付。
- 岡方農協の手芸教室(代表小林ソノ)が、六千四百十七円を福祉基金へ寄付。
- 錦鯉愛好会(会長小池小三郎)が、五千円を福祉基金へ寄付。
- 高口又四郎さん(内島見)が、碁盤、碁石セット十五組(三十三万五千円)、坂田栄男全集十三巻を、それぞれ中央公民館へ寄贈。
- 岩橋清作さん(鳥屋)が、亡妻リツさんの香典返しとして五万円を福祉基金へ寄付。
- 日本中央競馬会新潟競馬場(長佐藤幸男)が、複写機、和文タイプライター(九十三万二千円相当)を木崎中学校、木崎小学校へ寄贈。
- 木崎小学校PTA(会長佐藤範弘)が、木崎小学校へクライミングリング(遊具、二十八万六千円相当)を寄贈。
- 民謡水会(会主松本峻水)が、創立七周年記念チャリティーショーの益金四万二千二百五十円を福祉基金へ寄付。
- 葛塚中学校第三回卒業生一同(代表佐藤哲治)が、五万二千三百円を福祉基金へ寄付。

### おじやましまへす

## 日報短編小説賞で入選

渡辺 惣治さん(木崎 三八歳)



渡辺さんは、小説「遠いそよ風」で、見事日報短編小説賞佳作二席に入選されました。

おめでとつございます。

「おかげさまで…。遠いそよ風は初めて書いた小説で、人の良い若者と、しっかり者の老女の話です。テーマは前任地である津南町

にいた時に思いつきました。津南町は大変な豪雪地帯なんです、いわゆる地に着いた生活というのがあったんです。そんな充実感のある生活を書いたつもりです」

小説を書いた動機は。

「実は今、七人の仲間と戦後文学を読む会という読書会をつくっています。毎月一回新潟市に集まって、色々な作家の小説を読み、意見交換をするんです。小説を理解するために、自分でも書いてみたというのが本当でしょうか」

小説を書くコツと言ったら…。

「あつたら私が聞きたいくらいですよ。ただ、書こうと思ったらいい作家の作品を読むということ

団が、市の社会福祉協議会へ、マイクロボス(二十六人乗り)を寄贈。

○ 葛塚中学校第三回卒業生一同(代表佐藤哲治)が、五万二千三百円を福祉基金へ寄付。

は大切だと思えます。花田清輝、庄野潤三、安岡章太郎などが好きな作家ですが、論理の展開、生活描写などすばらしいですね。それと、省略することも詳しく書くことと同様に大切だと思えます。遠いそよ風は二晩で原稿用紙三十枚に書いたんですが、五回ほど直して二十枚にするのに一か月かかりました」

これからの目標など。

「日報短編小説賞は春と秋の年二回あるんですが、最高の名誉である入賞を目指してみたいですね。宣伝になりますが、来月十日に沼垂図書館で、私の入選作品の感想を述べあう集いがあるんです。興味があったら参加して下さい」

本が好きで、少なくとも年間百冊以上は読むという渡辺さんは、現在、南蒲原郡下田村の北陸農政局下田開拓建設事業所にお勤めです。